「日々の理科」（第 2573 号）　2021,-7,30

「夜のウリ坊（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

「ウリ坊」（瓜坊）というのは、イノシシの子どものことだ。体の縦じま模様が「ウリ」に似ていることからついた「あだ名」だ。イノシシの成獣はおせじにもかわいいとは言えないが、ウリ坊は文句なしにかわいい。そのウリ坊を今の時期は頻繁に見ることができる。

これは山荘の裏庭の地面である。何かに掘り返されたあとが無数にある。これはすべてイノシシのしわざである。

イノシシは驚異的に嗅覚に優れている。地中のミミズやキノコの匂いを嗅ぎつけて、それを強い鼻先で掘り返して摂餌するのだ。これは大きなイノシシ家族が着た証拠である。イノシシは完全に夜行性なので、翌朝にこういう状況になっていることが多い。

イノシシの家族は、毎日同じ時刻に、同じ場所に現れることが多い。餌を求めて歩き回るコースが決まっていて、夜になるとそこを集団で通るのだ。いわゆる「けもの道」というものだ。

この町道には、毎晩きっかり８時にイノシシの家族が横切っていく。私は自動車にカメラを据えて、現場にそっと近づいてみた。

まず現れたのが親イノシシだ。最初に渡ったのがオス、次に渡ったのがメスのようだ。親イノシシは警戒心が強く、子イノシシに危険が及ばない限り、自分から近づいて来ることは絶対にない。この時も、子イノシシを置いて、足早に森の中に入っていった。